

施設一体型小中一貫教育校について

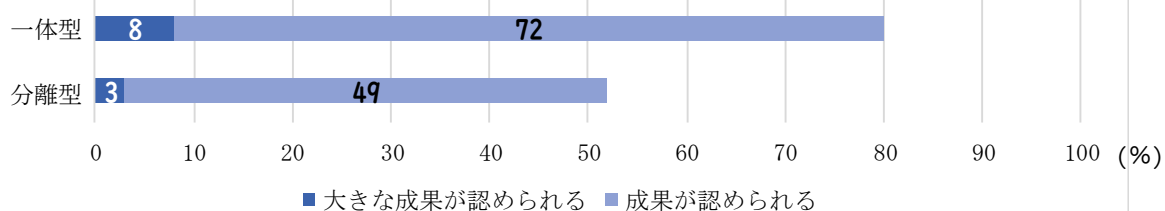
No. 1



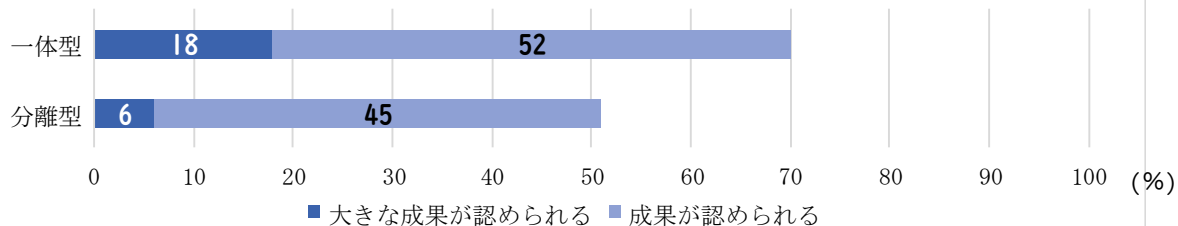
Q18 施設一体型のメリットは何ですか？

A18 小学校と中学校の児童生徒や教職員が一体となった取組が日常的に可能となるので教育効果が高くなります。先行実施校の調査で次の結果が報告されています。

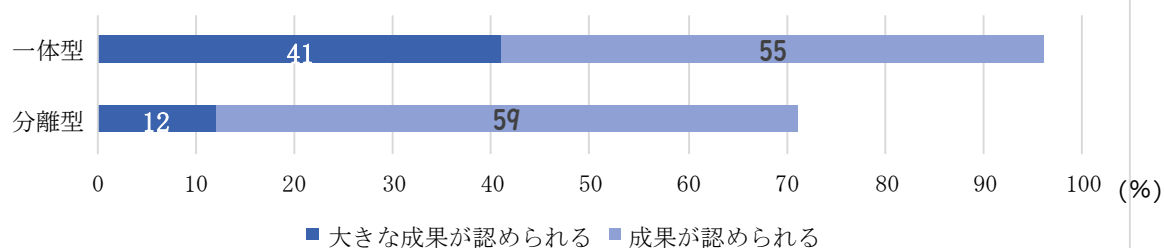
【授業が理解できると答える児童が増えた】



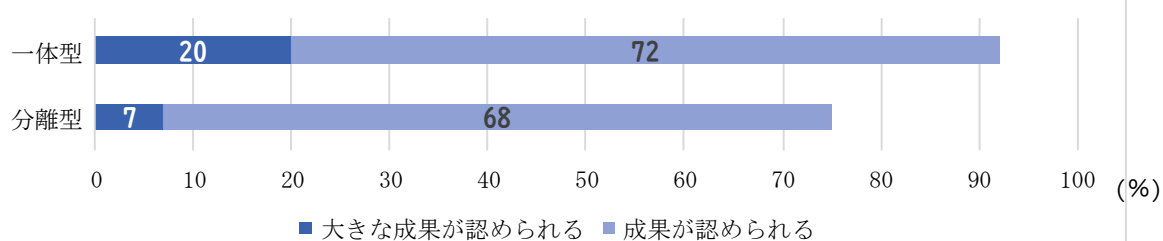
【不登校が減少した】



【上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まった】



【下級生に上級生に対する憧れの気持ちが強まった】



(平成 28 年の小中一貫教育の制度化へ向けての基礎資料を得るための調査より)



Q19 中学校入学を機に、新しい環境で心機一転したいと思っている子もいるのではないのでしょうか？

A19 笠岡市が進める小中一貫教育は、小学校6年生から中学校1年生にかけての節目を否定するものではなく、子供たちにとって必要な小・中のステップは残しながら、少しでも緩やかなものにしようとするものです。

笠岡市では、施設一体型であっても小学校・中学校は存在するわけですが、中学校進学という大きな節目にあたっては、学校行事を工夫するなど、子供たちが心機一転できるような機会を大切にしたいと考えています。



Q20 施設一体型の小中一貫教育校の先生の数はどうなるのですか？
また、校長先生や教頭先生はそれぞれ一人になるのですか？

A20 笠岡市が取り組む施設一体型は、小学校と中学校が同じ敷地内にあるという併設型小中一貫教育校ですので、教職員の配置については、施設分離型の小学校・中学校と同様に、それぞれの学級数に応じて教職員数が決まります。そして、小学校と中学校のそれぞれに校長と教頭が配置されます。なお、1人の校長が兼務することも可能です。

また、一つの職員室になることで、小・中学校の教職員が一緒に会議をするなど、情報交換や連携をより深めることも可能になります。

施設一体型小中一貫教育校

小学校・中学校

小学校校長

中学校校長



Q21 同じ施設で生活すると、中学校で起こるようなトラブルが小学校でも見られるようになるのではないのでしょうか？

A21 施設一体型では、中学生のよくない影響を心配される声をお聞きますが、小中一貫教育を実施している全国の小中学校の調査では、逆の結果が出ています。中学生は、小学生の前でよいところを見せようとする意識が高く、また、小学生は、中学生に対する憧れの気持ちを抱くという、よい相乗効果が生まれています。



Q22 小学校の卒業式と中学校の入学式は、なくなるのですか？
また、修学旅行はどうなりますか？

A22 併設型小中一貫教育校を考えていますので、小学校、中学校それぞれに入学式、卒業式を実施します。また、修学旅行も小学校と中学校の両方で行います。



Q23 小学校は1単位時間45分、中学校は50分ですが、授業時間の違いによるチャイムはどうなるのですか？

A23 他市町の小中一貫教育校においては、ノーチャイムや休み時間をずらすなどの工夫で対応しています。

一例としては、全てのチャイムを揃えることは不可能なため、1校時・3校時の始業時と給食時、午後の始業時など一部のチャイムを揃えているところが多いようです。こうした先行事例を参考に、校長が適切に判断し対応します。



Q24 運動会などの行事はどうなるのですか？



A24 運動会などの行事は、合同で実施することができます。準備から練習、当日の運営まで、それぞれの役割を分担し、協力しながら小学生と中学生が一緒になって活動する場面が見られます。

そのほか、始業式や入学式、音楽祭、避難訓練など様々な行事を合同で行うことが考えられます。



Q25 施設一体型となり、同じ施設で小学生と中学生が一緒に生活する場合、体格差が大きく危険はないのですか？

A25 小学生と中学生の体格の差については、学年段階の区切りに対応した校舎や運動スペースのゾーニングなどに十分配慮する必要があると考えています。また、逆に、交流スペースなどの共用部分の活用で、中学生が小学校低学年に配慮する姿が見られるようになることなども期待できます。





Q26 既存の小学校を統廃合して、新しく施設一体型の小中一貫教育校となる場合、通学はどうなりますか？

A26 通学距離について、小学校は概ね4 Km 以内、中学校は概ね6 Km 以内と規定されています。（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令）なお、笠岡市の小学校において、遠くから徒歩通学する児童の距離は、おおむね2.5 km～3 kmという状況にあります。こうしたことも踏まえ、学校の統廃合に伴い通学距離が遠くなり、基準を超えて負担を強いることになる児童に対応するためスクールバスを導入しています。したがって、統合となる全ての児童がスクールバスを利用するというものでもありません。通学距離が変わらない、または、近くなるという児童も考えられるからです。

スクールバスの運用については、既存の運用状況を参考にしつつ、運行ルートや停留箇所、運行時間、利用児童の範囲など、保護者と学校を交え協議して具体的なルール作りを行うこととなります。



Q27 学校名、校歌、制服、名札、校則などはどうなるのですか？

A27 笠岡市が導入する小中一貫教育校の施設一体型は、併設型小中一貫教育校ですので、小学校と中学校が存在します。ただし、小学校は統合して新しい小学校になりますので、統合後の新しい名称「笠岡市立〇〇小学校」となり、中学校は現在の名称が正式名称となります。施設分離型では、現在の名称が正式名称です。ただし、施設一体型・施設分離型のどちらも小中一貫教育校の愛称を付けるようになります。中学校ブロックごとに、「△△学園」などの愛称を、保護者や地域住民も交えて考えていきます。

施設一体型の校歌は、小学校は統合後の新しい校歌になります。中学校は、現在の校歌です。

制服や名札、体操服などは、施設一体型の学校開設準備期間に、保護者や教職員などで協議して決めていくようになります。

校則については、施設一体型も施設分離型も、中学校ブロックの実態に応じて系統的に定め、指導していきます。

